



降幡廣信[民家の
再生]を讀んで



t-iro

照明

和紙の丸く大きな照明。再生前の古民家が薄暗く月と友達ならば、再生後の古民家は太陽と友達。世界の国旗は月や星が多いらしい。夜に身体を休める心地よさからだとか。再び暗さを主体にした家が見直されるかなと思う。

帯戸

赤色を帯びた帯戸。磨くと綺麗に輝くらしい。少し重く開けづらいが、向こう側には二間続きの和室。冠婚葬祭の宴会場になる。海外の邸宅もプライベートの食事はキッチンで、フォーマルな食事は離れた別室らしい。

土間

土間の触った温かさ。でこぼこして柔らかくも感じる。竈の煙、ご飯の湯気、餅つきの掛け声。そんなことも混じりあって感じるのかも。

梁

縦横に交差する重厚な黒い梁。鉋で削った跡があった。古材としての価値があるとは大人になってから知る。

ナマコ壁

土蔵の海鼠壁。各地にあるのに、松本市中町の土蔵群は驚きました。実家の納屋も蔵。それぞれの地域性も持っているらしい。海鼠壁は下見板張りに再生されると現代的ですね。

茅葺き屋根

雪の積もった茅葺き屋根は丸くふんわりと。夏は涼しげにしてくれる。時にはネズミや蛇も住み、痛んでくると雨漏り。煤の色が入って茶色だった。再生で鉄板張りになるとなぜか安心する。

玄関

再生後の古民家の玄関は美しい。思い出の玄関は砂だらけ。縁の下に農作業の長靴を修理するゴムや誰のか解らない下駄

ゴミなど。田植えのお手伝いのお茶の場所や家庭訪問の場所でもあった。トイレが玄関を横切った場所だったので夜は恐く小走りする。

洋式への憧れ

再生された小綺麗な部屋に北欧の家具。共感します。だけど古民家に似合う家具もあるのだなと松本民芸家具の配置された写真で思う。家の価値が上がる様な。

広間

12畳半だった広間。子どもの頃に箒で掃くには広かった。再生されるとフローリングで洋式な趣に。ガイシの付いた太い梁は洗われ漆喰壁は真っ白に。壁紙にダークトーンも存在するが、黒い漆喰壁のままでもどうかと思う。

古民家の素晴らしさ

古民家の素晴らしさは、懐かしさだけでは無い。現在では手に入りにくい地域の材料を使い、職人の高い技術によるものだと思う。

関連した読書 "エクラン世界の美術11 ヴァイキングの遺宝と野外博物館" 北欧の野外博物館が興味深い。フリーランド・ムセーは農家を中心とした45棟の建造物などを復元など。農家の明治村の様な。

"イングランドティーハウスをめぐる旅"小関由美

藁葺きをサーチ thatchと呼ぶらしい。古い民家のティーハウスは、松本市の民芸調喫茶店と似通っていました。